

中央材料室 第1種滅菌技師 岡部 巖 主任 ナースリーダー『第1種滅菌技師』の記事

函館中央病院 (函館市)

第1種滅菌技師の岡部巖さんが、コストと効率を考えた業務で病院に大きく貢献



岡部さん

社会福祉法人函館厚生院函館中央病院(橋本友幸院長・三橋鈴代看護部長、527床)中央材料室の岡部巖さんは、第1種滅菌技師として中材業務の質の維持・向上に取り組むほか、「函館滅菌業務研究会」の代表として、地域の滅菌業務の底上げに尽力しています。

岡部さんは札幌出身で、以前は、中材業務の委託会社社員でした。現病院での勤務は3年目となります。第2種滅菌技士の資格取得後、すぐに第1種滅菌技師を取得。「滅菌の精度を測るインジケータを総合的、複合的に判断して使用するなど、考え方や捉え方が深まった」と、1種取得により、日常業務に変化も感じています。

同院には現在、3台のウォッシュャー・デイスインフエクターが整備されており、1台当たりの稼働状況は1日6回。道南唯一の総合周産期母子医療センターとして未熟児センターを有することから、3台のうち1台は「ほぼ哺乳瓶の洗浄・消毒専用」として稼働しています。また、今年4月には、LTSF(低温蒸気ホルムアルデヒド)滅菌装置を道内で初めて導入。従来のEOG(エチレンオキシトガス)滅菌法に比べ、滅菌時間が約3分の1と大幅に短縮されることから、「手術室で使った器具をその日のうちに滅菌し、翌日には再利用できる。回転効率が良いので、在庫を抱える必要が無く、コスト面でも大きなメリット」と期待しています。

岡部さんは、「中材室は、診療報酬が付くわけでもなく、お金を生みださない部署。しかし、効率を高めることが大きなコストダウンにつながる。モノ

を買わないことがコスト削減ではなく、業務内容をコスト換算し、その中で必要・不必要を分け、必要なものを購入することで、トータル的にコストが削減される」と強調。今後も、こうした視点で、洗浄・消毒・滅菌業務の効率化を進めていく考えです。

講演活動など院外活動も積極的に取り組んでいます。昨年、函館市内の有志7人とともに、「函館滅菌業務研究会」を発足させました。自身が代表を務め、9月13日(土)には、同病院で第1回研究会を開催し、岡部氏のほか2人の看護師が講演する予定です。今後、こうした会を開きながら他施設との情報交流を深め、地域における洗浄・滅菌業務等の底上げを図っていく考えです。